

ハーモニー



(第36号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 メール：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

chapter 1 女性漁師との意見交換会を開催しました！

男女懇話会では、下田市須崎で漁師をしている田中真央さんと意見交換会を開催しました。漁師というと男性が多く従事しているイメージがありますが、その中で女性として感じる事など、様々なお話を伺い、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。今回のハーモニーはその内容を掲載します。



常に笑顔で対応していただいた田中さん

◎なぜ漁師になろうと思ったのか？

高校を卒業後、都会へ出て仕事をしていたが、7・8年くらい前に父親が乗っていた前の漁船が壊れ、新しい漁船を購入した際に両親の手助けを少しでも近くにおいてしようと思い、下田へ戻ってきた。最初は、漁師になろうと考えてなく、ハローワークなどへ行き、普通の仕事を探していた。そうやって就職活動している中、ちょうどカジキ釣り大会があり、手伝いをしつつ、遊びがてら船に乗っていたら、知らない間に漁師になっていた。

◎一緒に漁船に乗っているのはお父さんの他にいるのか？

もともと3人姉弟で、弟が2人いる。現在、長男はおじの漁船に乗って修行しており、次男は父親と私の漁船と一緒に乗っている。しばらくはこの状態で続けていくと思う。

◎何の魚をどういった方法で釣っているのか？船の上ではお父さんや弟さんと全く同じ仕事をしているのか？

金目鯛を主に漁をしている。1本釣りという漁法で、釣糸に40本から50本の釣針と錘をつけ、深さ約600メートルまで放り込み、しばらくたってから、電動リールで釣糸を巻き上げるといった漁法。漁場は須崎からだいたい40分くらいで、金目鯛の群れをレーダーで探し、船の舵は父親が取っている。朝は3時に起床し、3時半には出港、帰りは釣果によって変わり、昼に帰るときもあれば、夕方になることもある。船の上では、父親や弟と全く同じ仕事をしている。金目鯛を釣針から外したり、運んだりなど…。金目鯛の歯がかなりギザギザなので、手などはボロボロの状態である。主に金目鯛漁だが、お客さんがいるときには、近海でワラサ釣りなどの釣り船としても出している。また、カジキ釣りもやっている。

○**金目鯛を扱うのが怖くないのか？金目鯛の大きさはどれくらい？**

金目鯛を怖いと感じたことはない。大きさはだいたい3キロくらい。しかし、最近は全然釣れないので困っている。

○**実際に釣った金目鯛はどういった形で市場に流れるのか？**

金目鯛は漁協を通じて、市場へ流れる。弟が漁協に魚を持っていき、その間に父親と私で片付けを行い、その後、漁船の掃除や餌づくり、道具づくりをしている。

○**勤務時間が相当長いと思うが体力的に厳しいことはないか？**

釣果によって、帰る時間も変わったり、船の上の空き時間で作業を先々やっているのですが日々勤務時間についてはバラバラである。正直、最初の頃は体力的にかなり辛かった。その中でも眠たさには相当苦勞をした。船から帰ってきて家で寝て、またすぐ起きるというサイクルの繰り返しで、「もう行くのか」と思う日々だった。夜はだいたい10時くらいには寝ている。土曜日が漁協の市場の定休日なので、基本休みは土曜だが、天候によって左右され、わかりやすい例で言えば、波が荒い日は休日になってしまう。

○**漁師は男性が多いイメージだが、戸惑うことはなかったのか？**

親戚や周りの人たちはほとんど漁師で、小さい頃からそれを見ていたり、教えてくれたりしてくれる環境だったのでそこまで戸惑うという感覚はなかった。ただ、漁師は力仕事なので、普通男の人なら1回で運べるところを2回に分けて運んだり、そういったちょっとしたところで大変なのかなとは感じる。

○**他に女性の漁師はいるか？**

漁船に乗って金目鯛の漁などをやっている人はおそらく市内にはいないと思う。渡船の船長であれば、田牛に同級生の女性船長がいる。海女さんなどは多くいると思うが、それでも最近では女性だけではなく、男性でも潜る人が多くなってきたと思う。

○**漁師は力仕事の主になると思うが、そういった点で困ることはないか？**

漁船に乗り出した頃は、弟はまだ一緒に乗ってなくて、1人で父親のサポートをしていたので大変だったが、今は大きな荷物を運ぶ際にも、弟に手伝ってもらえるのでそんなに困ることはなくなった。また、周りにいる人たちもよく手伝ってくれるので、自分のことを気にはしてくれているんだなあと同時に、本当にありがたいと感じる。

○**船にいる時間が長いと思うが、困ることはないか？**

船にトイレがなかったら、たぶん漁師をやっていないと思う。今の船は金目船でトイレがあるので、本当に恵まれていると思う（船の種類によってはトイレが設置されていないものもある）。



田中さんと男女懇話会委員との意見交換の様子

○漁師の仕事を覚えるのは凄く大変ではなかったのか？船の免許などは持っているのか？

仕事のほとんどは父親から指導を受けた。最初のころは、何もしないでずっと見ていただけだった。見よう見まねで徐々にではあるが、実際にやりながら覚えていった。1級小型船舶免許と無線免許は持っているが、舵を取りながら作業をするのは、まだまだ難しい。父親はそれを普通にこなしているのが本当に尊敬している。



船で作業をしている田中さん

○海で何か危険なことに遭遇したことはあるか？波が荒い日など怖くはないか？

自分たちの船では遭遇したことはないが、一緒に漁をしていた船がエンジントラブルで動けなくなり、その船を引っ張ってきたことはあった。波が荒くても少し驚くだけで、本当に怖いと思ったことはほとんどない。

○今、家族で漁船に乗り、漁師をしているが、別の船に乗りたいと思うか？

別の会社の漁船に乗ることは考えていない。仮に父親が船を降りたとしても、弟と一緒に家の船で漁師を続けていきたい。別の船に乗ると船の上で言いたいことも言えなくなる部分もあると思う（今は家族だからできている）。

○漁師をしている中で、こういったことにやりがいを感じるか？

やはり魚が多く釣れた時に一番やりがいを感じる。

○須崎で金目船は何隻くらいあるか？

金目船は大体 20 隻くらいあると思う。高齢になると共に金目船でなく、どうしても近場に漁船を走らせるようになってしまうので、そういった漁船も含めるともっと多いかもしれない。

○他の漁師との交流はあるか？

例えば、寒い日などは小屋に入り、ストーブの前で話をしたりするなど、交流はしている。その他でも交流は色々としているが、特に女性としての特別視はされていないんじゃないかと思っている。

○高齢化の話が少し出たので聞きたいが、後継者として田中さんのような女性の方が継ぐようなことはあるか？

海女になって潜りをする人や貝を採る人などはいるかもしないが、女性の漁師はいないと思う。

○将来、ご結婚されても漁師を続けるか？

結婚相手が良ければ、今後も続けていきたいと思う。ただ、漁業権の問題もあり、須崎に住んで漁師を続けても良いという人がいれば…。

○若い世代の漁師の方はいるか？

須崎に関して言えば、弟の世代の人たちが多く、後継者問題については他の場所に比べれば良い方だと思う。

○新たに女性が漁師をやりたいと相談されたら、どう答えますか？

自分が最初に漁師として働きだしたときが凄く大変だったので、お勧めはしないと思う。でも、やりがいはある。男性だったらどんどん乗ってほしいなと感じる。

○昨今の金目鯛の漁獲量についてどう感じているか？

どれくらいのサイズから漁協さんが買い取ってくれるのか？

金目鯛を広げて、手のひらサイズ（金目鯛の干物ができるサイズ）くらいから買い取っていただいている。漁獲量については、昔、父親が若かったときと比べると相当減ってきていると聞いている。今年も夏は海水温が高かったため、釣果はあまりよくない状況が続いている。

○漁師を辞めたいと思ったことはなかったのか？

何回かはあったが、なぜかまだ続けているという状況。机に向かう仕事が好きではないので、体を動かす仕事の方が向いているのかもしれない。

○女性漁師ということで漁師以外の周囲の方はこういった反応をしているか？

周囲の人からは、温かい声をいただいている。自分自身は、男女の性別をあまり気にせず漁師をしているので、逆に周りの人の方が考えてくれているのかもしれない。そういった部分を含め、漁師としてやりやすく従事させていただいている環境は、本当にありがたいです。

○全体を通じて、家族で一つのことを取り組み支え合うことが凄く大切であると感じたか？

本当に凄く大切なことだと思う。船の上で仕事をしていると、よくケンカはするのでそういった環境は、社会として出るとなかなか出来ない厳しい部分だと感じる。また、母親には、家の家事等、全てをお願いをしているので本当に感謝している。

○将来、目標としているものはあるか？

将来は父親なしでしっかりと漁をやれるようになることが目標。まだ、船の舵も取っていないし、父親の下で弟と2人で漁を手伝っているような感じなので…。レーダーを見ながらの作業はしているが、まだまだ経験が少ないのでもっと色々なことを学んでいきたい。

《編集後記》

今回の意見交換会を通して、田中さんは全ての質問に対し、常に笑顔で答えていただき、そういったところからも田中さんの人柄が元気で明るい方であるとわかりました。また、多くの大変興味深いお話を伺っている中で、次の3つのことが非常に興味深い部分だと感じました。

1. 男女の性別にとらわれずコミュニケーションをとる必要性
2. ハード面での整備（トイレがあることによって漁師を続けている）
3. 家庭の中で仕事と家事等の役割がされており、そのことを家族全員が共通の認識として理解していること。

こういったことを少しずつ実現していくことが、今後、男女共同参画社会がより社会に浸透するために必要なことかもしれません。

田中さんにご家族の方のより一層のご活躍を期待しております。また、取材にご協力を頂きまして、本当にありがとうございました。この場を借りて、お礼をさせていただきます。

男女共同参画情報紙「ハーモニー」は、下田市ホームページでも公開されております。

ホームページアドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

【 ホーム > 市政ガイド > 男女共同参画 > 男女共同参画情報誌「ハーモニー」 】

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」へのご意見、ご感想を募集しております。

下田市役所 企画財政課 企画調整係 までご連絡ください。

TEL : 0558-22-2212 FAX : 0558-22-3910 E-mail : kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp